

第47回ブレイクスルー研究会議事録

「人工知能の夢と現実」

1. 日時：2017年10月16日（月）18時から19時50分
2. 場所：日本経済大学大学院
3. 参加者：15名
4. 講師：佐藤聡氏（(株) クロスコンパス 代表取締役 社長）
5. 内容：（要約）
 - ①2011年3名で創業、現在30名（国際的な専門家集団）
 - ②事業内容：A（収入確保、知見蓄積）－AIコンサルティング／パイロットプロジェクト／研究開発
B（本来目的）－AIプラットフォーム／新NNアルゴリズム開発
→相談件数150件以上、25社以上、将来はNN（ニューラルネットワーク）テンプレート、学習済みNN、処理フロー、学習用データが流鶴市場の創出と
Intelligence eXchange（略称：IX）を目指す。
 - ③事例：異常検知、外観検査、動作検知、燃焼識別、売り上げ予測、音響制御、工作機械・加工プロセス応用、リコメンド、情報セキュリティー、医療画像識別等
 - ④第3次AIブーム、市場規模2030年87兆円、現在はDeep learningで飛躍然し、専用AI、今後汎用AIで、強いAIを目指したい。
 - ⑤実現したい未来イメージ：
 - ・企業向けAI基盤＝特定用途向け（戦略パートナー企業と共創）
 - ・一般ユーザー／開発者向けAI基盤＝公開AI基盤（関心のあるユーザとの共創）
（公開AI基盤→アルゴリズム、テンプレート、API利用、データ提供等）
 - ・そのために、アカデミアと組んで、AI開発流通基盤、オープンデータ蓄積等）
 - ⑥狙いは
知能階層化：クラウド（全社ERP）、プライベート・クラウド（工場ERP、IPC、PLC、エッジ・デバイス）。
当面エッジ・デバイスでの処理で特徴量を受け取り、上位概念での処理を進める方向にする。
 - ⑦今後のAIは、意識を持つ強いAIが待たれるが、日本の優位性の可能性は、DL（Deep Learning）がなぜうまく動くのか、数理モデルできちんと説明できない。それを解き明かし量の勝負から質の勝負に持ち込むことが、世界的な先駆けになるのではないか。そのためにDLで利益を確保しつつ、汎用AI、強い（意識を持つ）AIへの基盤整備が重要。

以上（文責：旭岡）